

「多喜二奪還事件」の紙芝居

伊勢崎・多喜二奪還事件 をご存知ですか？

写真は、当時の伊勢崎警察署仮庁舎。
この建物が多喜二の入った留置場。

1931(昭和6)年9月6日、群馬県伊勢崎町の文芸講演会、
不当に検束された多喜二を民衆が警察から奪い返す大事件！
79年の時を経て、群馬・伊勢崎の多喜二の姿が蘇ります！

制作：伊勢崎・多喜二祭実行委員会、群馬県伊勢崎市八幡町44 長谷田

「多喜二奪還事件」の記録」の紹介

伊勢崎に
来た講師は？

伊勢崎の
多喜二の
姿は？

1931(昭和6)年9月6日午後6時に文芸講演会が予定されていた伊勢崎町の共栄館。200名収容を大幅に上回る聴衆で一杯に。講師陣と地元指導者の検束の事態に、代理弁士で講演会を決行！



小林多喜二
作家同盟書記長
都新聞に連載小説、翌月入党

村山知義
劇作家、翌月には演劇同盟の委員長、5月入党

中野重治
ナッポの機関誌「ナッポ」の編集長に、夏に入党

他に左翼劇場の芝居の予定も、俳優3名が来県、三好久子、清洲すみ子の名前が！
(写真は、共栄館オープン時の大正時代のもの、丸一酒店所蔵)

新刊「多喜二奪還事件」の記録



「多喜二奪還事件」資料集3

「多喜二奪還事件」の記録 — 伝説から 史実へ

回想を中心に叙述されてきた「多喜二奪還事件」。1960年に公表されてからも史実としては限定的なものでした。例えば、多喜二の年譜にありませんでした。2007年12月31日付「しんぶん赤旗」の全段記事、蛸崎澄子さん・藤田廣登氏の調査・研究・出版、地元の伊勢崎・多喜二祭実行委員会の結成により事件究明の輪は大きく広がりました。伊勢崎・多喜二祭は今年で3回となりました。

第3回伊勢崎・多喜二祭の9月5日に出版された『多喜二奪還事件』の記録』は、事件の起点と終点について、当時の一級資料を発掘し、「多喜二奪還事件」を歴史的大事件として確定させる土台を置きました。

これによって、事件を報道した新聞記事や数々の回想を史実の中に組み込む道を拓きました。その全史料を収録、新しい多喜二に出会えます。

ぜひ群馬のテントに！



第1回伊勢崎・多喜二祭(中川知子有線社) 第2回伊勢崎・多喜二祭(北村九典氏)

旧菊池敏清邸



(菊池邦作
『随筆柿』)

いまでも覚えているのは、多喜二が座敷の床柱を背にして、あぐらを掻き火のない大きな火鉢を前にして腕組みをして話を続ける姿である。



1931(昭和6)年9月6日午後1時頃、本庄駅から多喜二達が立ち寄った菊池敏清宅。多喜二は茶話会で「文学と台所」を話し、近くの菊池盛夫宅で苺の卵とじの味噌汁をお代わり。敏清宅に戻ったところを特高に総検束。今もその姿を残す敏清邸。伊勢崎署に留置された多喜二は、「署長を出せ！何で俺たちをこんな所に入れた！」と丸太を叩き、床を踏み鳴らし、暴れて抗議。直後警察署内外に革命歌・労働歌が響きました。なんと警察署から署長・署員が逃げてしまったのです。

紙芝居です！

いせさき 多喜二奪還事件



①群馬県佐波郡伊勢崎町や茂呂村（ともに現伊勢崎市）では『戦旗』が150部も配布されるなど活発な運動が行われ、葉書1枚の要請にナップが応え、文芸講演会へ講師派遣が実現しました。



②多喜二たちを迎える伊勢崎のグループは、数年前には『上毛大衆』を発行し、その文芸欄でプロレタリア文学運動を展開していました。右派の社会民衆党に属しながらも、共産党に接近していました。

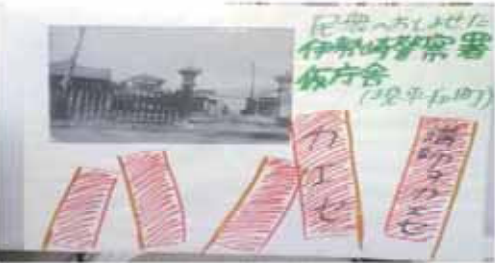
③東京帝国大学2年でナップ会員の菊池敏清の家では、午後1時頃より茶話会が開かれ、約30名が多喜二の話を行いました。夕食を食べた菊池盛夫宅では、妹のはる子さん・弟の正氏が多喜二と話しています。



④検束を逃れた菊池盛夫氏は共栄館に急ぎ、講師を釈放させようと訴え、100名の民衆が後に続き、抗議行動の中、警官が警察署から撤退しました。その後、警察側・民衆側とも増員をはかりました。



⑤県特高課長・泉守紀の指示で、警官隊は民衆に襲いかかりました。新聞でも報道された「大乱闘」「大混乱」となりましたが、警察側・民衆側の代表で交渉がもたれ午前2時頃決着しました。



⑥午前5時には本庄駅に多喜二達は送られました。それを見送った福田正勝・堤源寿らは、翌年入党し、日本共産党群馬県委員会の再建に成功。事件の1年後には、7つの市・地区委員会、15の工場細胞を含む25の細胞を組織しました。



【菊池（小林）邦作】

1899年～1986年。佐波郡茂呂村に生まれ、小林家の婿養子となり、東京高等蚕糸学校へ。卒業後、無産運動に尽力。8回検挙。『上毛大衆』主筆。奪還事件以後、前橋で『蚕糸公論』発行。戦中に復籍。戦後は疎開先の松本で共産党再建・治安維持法廃止に貢献。上京し、潮流社等を経て『蚕糸絹情報』発行、晩年に大著『徴兵忌避の研究』刊行。



【菊池敏清】

1909年～1994年。佐波郡茂呂村に生まれ、旧制浦和高校から東京帝国大学文科へ。ナップの会員として、地元で『戦旗』の普及に努め、奪還事件を迎える。半年後には徳永直等を招き、反建国祭闘争を指導、戦中に無償で農地解放。戦後は『民論』、伊勢崎民主新聞を発行し、地域の民主的文化形成に貢献した。

画家のいわさきちひろさんの入党推薦者です！
写真は若い頃ですが、平山知子弁護士のお父さんです。
太宰治と東大同期生。

文芸講演会を準備した人

注文先 伊勢崎 372-0051 群馬県伊勢崎市八幡町之4
F 電話 X 崎 072-0705 多喜二祭実行委員会
ネットでは、アマゾンで注文できます。



ホームページに情報満載 <http://www.takijidakkan.com/> 「多喜二奪還」で検索して下さい。上位にランクされます。

すぐ手に入る本です。



藤田廣登『小林多喜二とその盟友たち』（学習の友社）
『ガイドブック 小林多喜二の東京』（学習の友社）

もっと知りたい人！